

脚本タイトル

「過去の顧問作品をやろうと思ったけど、今のウチの部員じゃできないんじゃないかね？って思ってた書き直した作品は、創作か既成か問題」

作者 渚太陽

上演年度

2024年度 宇部地区高等学校演劇発表会 最優秀賞

2024年度 山口県高等学校演劇発表会 出場

登場人物の数 七人（男子4～5人、女子1～3人）

作品紹介 地区大会で過去の顧問作品を上演しようと思った生徒達だが、顧問から祖父との大切な思い出を描いた作品をやるには、今のウチの部員じゃできないと言われる。そして、部員が足りないことも指摘され…

上演許可を得るための連絡先

宇部鴻城高等学校

キャスト

源一郎（裕一郎の父） きら

雁二郎（裕一郎の祖父） ゆゆ

裕一郎（源一郎の長男） ゆゆ

京子（源一郎の長女） 先生 なつき

優（京子の息子） まー

ひろし（裕一郎の同級生） スミ

K（元キックスのヴォーカル？） とわ

#二つの回想

源一郎、裕一郎は、なつきの書いた作品の役者

なつきと裕一郎の台詞は同時に言う

源一郎 なんだって……、おい、もう一度言ってみろ！

なつき 仕事……辞めたいんだ

裕一郎 仕事……辞めたいんだ

源一郎 お前……何を……

なつき ごめん……

裕一郎 ごめん……

源一郎 何が、何があったんだ。

なつき ごめん……

裕一郎 ごめん……

源一郎 お前なあ、一体、みんながどういう気持ちでお前を東京に送り

出したと思ってるんだ。みんなお前が、大学を出て東京で先生を

やってるって、そりゃ喜んでたんよ。親戚の美代子おばさんなん

か、町一番の秀才やって泣いて喜んで……母さんが死んだあと

一番世話になったやろが。何て、説明するんか。

裕一郎 ……ごめん、我慢できなくて……

なつき ……ごめん、我慢できなくて……

源一郎 何が、あったんか？

なつき ……ごめん、私が悪いのよ。

裕一郎 ……ごめん、俺が悪いんよ。

源一郎 ……

受話器越しにむせび泣くなつき、裕一郎。

源一郎 ……それで、辞めてどうするんか？

なつき ……実は……やりたいことがあるの。

裕一郎 ……実は……やりたいことがあるんよ。

源一郎 何か、それは？

なつき ……言うのと、きつと反対する。

裕一郎 ……言うのと、きつと反対する。

源一郎 反対なんかすりやあせん。お前が決めたことやる。じゃけどの、

一度決めたことをあきらめるってのは相当な覚悟がいることやる。

お前が、苦しんだのも……先生を辞めるっちゅうことを考えたら生

半可な気持ちじゃないこともわかる。我慢してそれを続けるとは

わしも言わん。反対なんかするもんか。

なつき お父さん……

裕一郎 親父……

源一郎 じゃけえの、次はないぞ。お前が今やりたいと思う何かをわし

が反対するって思ってる言えんのなら、それはまだその仕事か何か

わからんけど、それに自信がないからぞ。仕事をやめる覚悟があ

るもんが、やりたいことを言えんのは、何か後ろめたいか、自信

がないからいや。じゃったら自分でそれに自信が持てる、仕事と

してちゃんと胸を張れるまで、帰ってくるな。

なつき え？

裕一郎 え？

源一郎 ええか、お前ものう、きちんと自分を持って、その仕事を誇れ

るように頑張れ。そうなるまで、ウチには帰ってきちゃいけん。

ええか、わかったか。

回想終わり

舞台は、演劇部の練習場

中央に祭りのやぐら

まー、台車に衣装（法被や作業着）を載せて入ってくる

先生 それで、過去の顧問作品をやるうと思っただけど、今のウチの部員じゃできないんじゃないかね？って思ってた……

きら えー……

まー 先生！

きら 何ですか？

まー そうですよ、やりましょうよ。『おかえり、ちやま』

先生 無理です。

まー どうするんですか？これ。みんな頑張ってる、本格的なやぐらのセットになったのに。それに衣装だっけ着てるんですよ。

先生 だからそれはあとで、みんなに謝っておきます。

きら このやぐらと太鼓の感じ、お祭りっぽくていいのになあ……

先生 太鼓、叩けないんですよ。

きら だから、太鼓のシーンは全カットで。

まー もしくは、エアー演奏で音響入れて。

先生 無理よ、お祭りのシーンあるんだし、太鼓はキーアイテムだよ。どうすんのよ。太鼓の無いお祭りなんて。

きら わかりました。俺も男です、太鼓練習します。

まー よく言った、きら！じゃあ、早速「太鼓の達人」で練習しよう。

きら うん、だから、やりましょうよ。

まー お願いしますよ。

先生 「太鼓の達人」はゲームでしょ。それに、もし、太鼓が出来たとしても、あんた達には難しいと思うよ。

きら どうしてですか？

先生 『おかえり、ちやま』はね、私の父と祖父の大切なエピソード

から生まれた脚本なの。今のあんた達の表現力じゃ無理だって、気づいたのよ。

まー あー、それ偏見ですよ。先生。

きら そうですよ。「どんな役にでも挑戦しろ」って、いつも言ってるじゃないですか。

まー それを無理だなんて、ひどいですよ。

先生 それに、一応「戦争もの」なのよ。戦死した祖父のことを思っ
て書いた内容なの。戦争のことを理解してないあんた達にやって
欲しくないのよね。

きら 戦争を理解してないって、どういうことですか？

先生 あんた達、日本史と世界史のテスト何点だった？

きら ぎくつ。

先生 まーちゃんも、何点？

まー ぎくつ、ぎくつ。

先生 この国がどうして、戦争しなければならなかったのか答えられ
る？なんて習った？

まー え、えーと……

きら ウホツ、ウホツ

先生 出た！サルの鳴きまね。きらがフリーズしそうになると必ずや
るわよね。

きら ウキーー

先生 だから、そういう歴史的背景とかを分かってないままこの台本
をやるのは嫌なのよ。

まー それを理解させるのが、顧問の役目でしょ。

先生 でもさ、今年の地区大会は、今のあんた達がやるなら、文化祭
でやったシェイクスピアシリーズがいいんじゃないの？

まー 確かに、あれなら台詞も入ってるけど……

きら　でも、もうあの台詞を言うのは、飽きちゃったんだよね。

先生　はあ？何を言ってるの、飽きるほど台詞を吐いてからが、本当の勝負よ。

まー　それに、あの台本じゃ、時間短いでしょ？それなら、先生が温めていた『おかえり、ちゃま』がやってみたいんですよ。

先生　あなた達が、この台本やっても地区大会勝てるかなあ…

きら　先生は、芝居を勝ち負けだと思ってるんですか？

先生　ぎくつ。

まー　「やりたい役を思う存分やれるのが演劇部よ」って、生徒を勧誘してませんか？

先生　ま、そ、その…ほら、ゆゆだっていつも寝てるし、最近、基礎練習が適当になってるでしょ。だから無理だつて。

ゆゆ、精神統一のポーズで寝ている

きら　おーい、ゆゆ。練習するぞ。

ゆゆ　え？まだ眠いよ

まー　しっかりしろよ。

先生　それにあんた達、最近さあ、台詞のキャッチボール練習が、ただのキャッチボールだけになってない？

きら　ウホッ？

まー　そんなことないよなくゆゆ

ゆゆ　そんなことないですよ、むしろキャッチボールがバレーボールに変化しています。

先生　ええ？！

まー　ちよつと、ゆゆ。何言ってるんだよ。

ゆゆ　きら先輩なんか、もう基礎練習は、「バレーボールで声出して行

こう！」って言ってますよ。ねえ？

先生、無言で近づいて台本できらの頭を叩く

きら　ウキ、ウキー

まー　先生、それは体罰ですよー

先生　動物に対する躰です！

まー　ああ、なるほど動物か…ってそれでも動物虐待です！

先生　まあちゃん。大体、あんた達三年生が、しっかりしていないからねえつて、サルの鳴き声をやめろ！

まー　先生、落ち着いてくださいよ。

ゆゆ、精神統一のポーズで寝ている

とわ、スミ登場

とわ　おはよー

スミ　おはようございます。

まー　あ、おはよう。

スミ　何やってるんですか？

先生　スミー、ちよつと聞いてよ。

先生、スミに駆け寄る

とわ、きらを慰める

スミ　それより先生、台本どうなりました？。

先生、立ち止まって

先生 ああー、そうだった！

きら、とわを台車に載せて遊んでる

スミ 台本読んだんですけど、僕台詞多くないですか？どうにかかなり
ませんか？

先生 何言ってるのよ、スミの役は、祭りを中止にした市役所の職員
で、源一郎と対立するから台詞が多くて当然でしょ。

スミ そうですけど…

先生 まあ、もうその台本はやらないって決めたからいいけどね。

スミ え、やらないんですか？せっかく覚えたのに…

まー ねえ先生、とりあえずやってみましょうよ。

スミ やらない理由は何ですか？

先生 まーちゃんから聞いて。

まー 俺たちにこの台本をやる実力がないうって。

スミ ええ？

まー それに、戦争のこととか全然わかってないのに、やらせられな
いうって…

スミ それは、ちよっと同感。先輩たちなら考えないだろうって思っ
てた。

まー スミー

きら、会話に入ってきて

きら おい、ちよっと先輩に対して失礼だぞ。

スミ え？じゃあ、台本にある硫黄島の戦いは何年？

きら え？あ？

まー いおうとう？

スミ これ（台本を見せる）

まー ああこれ硫黄島って読むのか？ハハハ

スミ 硫黄島はこの島？

きら え、えーと…ウホウホ（サルの鳴きまね）

スミ やっぱりね…先生、お気持ち察します。

先生 スミだけよ、そう言ってくれるのは。

とわ ねーねー、俺、歌うたいたい！

先生 は？

きら、まー、とわがサルになって肩を組んで歌っている

三人 ウホ、ウホ、ウキー♪

スミ あー無理無理！収集つかない。やめますかこの台本。

先生 でしょ、今のあなた達じゃ無理だと思う。

ゆゆ、目を開いて

ゆゆ なら、私たちに合うように書きかえればいい。

三人 ウホッ？

スミ え？

先生 え？

ゆゆ 先生はいつも私たちに言ってます。「どんな人にだって出来る役
がある」とか、「この世は舞台、人はみな役者」ってあれは、嘘で
すか？

まー ゆゆ？

きら そうだ、そうだ！

とわ そうだ、そうだ！

先生 そ、そう思ってるわよ。でも、今のウチの部員の実力じゃあ、出来そうもない気がするのよ。

ゆゆ だから、先生が今の私たちのことを考えて書きかえるのです。

先生 みんなに合うように？

ゆゆ そうです。そして、みんなの意見を取り入れてこの作品を上演できるようにしましょう。

まー おおー。

スミ いつになくやる気だな、ゆゆ。

きら 確かに

ゆゆ はい、この「息子に戦死したおじいちゃんが乗り移って現世にやってくる」っていうSF的展開とそれを一人二役っていう設定が気に入っちゃたんだよね。

きら 実は、死んだおじいちゃんの黄泉がえりって感じがね。

ゆゆ 良い設定じゃないですか、先生。

先生 え、ええ（まんざらでもない様子）…

きら よっ、脚本家！

ゆゆ 先生なら出来ますよ。

まー 何で、上から目線。

ゆゆ 歌もうたわせましょう。

とわ やっほー、歌だ、歌！

先生 どこに入れるのよ。歌なんて。

ゆゆ それをみんなで考えるのです。

先生 で、でも…

ゆゆ かつては作曲家を目指してたんでしょ？前に言ってたじゃないですか？先生は夢をあきらめるのですか？

先生 そ、それは…

スミ 何だか、ゆゆの方が先生を圧倒してる。

まー どっちが顧問かわかんないな。

ゆゆ なんなら、シエークスピアの台詞もいれましょう。

先生 本気で言ってるの？

ゆゆ 私は、いつでも本気です。

スミ 娘役の京子はどうします？イラスト部の子が、やっぱり出来な
いって言っていました。

先生 ええ？それなら家族構成的に書きかえはむずかしいなあ。

スミ そうですよね。

ゆゆ 先生がやればいい。

先生 何を言ってるの？大会規定でスタッフキャストは、在校生って
決まっているのよ。違反したら審査対象外になるの。

ゆゆ 勝ち負けにこだわらずにやりたい舞台をやる。それが、青春で
しょう？

先生 で、でも…

まー とりあえず通し稽古してみましようよ。

きら そうですよ。いろいろと試しながらやってみたら見えるものも
あると思います。

ゆゆ さあ、勇気を出して♪（歌い出す）

スミ まあ、やってみるだけやってみましよう♪

とわ いいアイディアあります♪

全員 やりましよう♪

先生 歌、下手だなあー、まあ、やるだけやってみるか…

全員 よーっし！

先生 何だか、騙されてるような気がする…

スミ 音響照明準備OK？じゃあ、夏祭りが中止になったところから。

全員　はい。

法被や作業着をきらとスミ

とわは、台車や小道具を片付ける

きら　それじゃあ、いきます。よいい、ハイ！

#盆踊りの中止

舞台は、夕方の祭り会場

ひろしは祭りののぼり旗を外している

源一郎　フェスで郷土愛が生まれるか？そんなものなくたってみんなこの町が大好きいや。そもそも夏祭りや盆踊り大会ってのはさ、先祖や亡くなった人がお盆に帰ってくるための目印としての集まりなんよ。そういうお帰りなさいっていう気持ちこそ、おもてなしやないんか？ただ単にいっぱい人を集めて、馬鹿騒ぎをするようなフェスみたいなもんじゃなくてよ。

ひろし　…あのね、もうそういう古い考えだけじゃ、市も観光協会も動いてくれないし、こんな小さな町には助成金や寄付金も集まらないんだよ。だから、新しいことを考えていかないと。

源一郎　そんなに新しいことがいいもんかね。

ひろし　第一、帰省する人も年々減ってきてとるし、裕一郎だってあれ以来、帰って来てないやろ。

源一郎　……

ひろし　もう何年になる？

源一郎　忘れた。

ひろし　大学出て、先生辞めてそれからやろ。

源一郎　そうやの。

ひろし　京子さんの結婚式の時は、先生やったよね。

源一郎　おう。

ひろし　じゃったら…、七年か。

源一郎　……

ひろし　早いなー。そりやそうか。おれも三十過ぎたもんなあ。何で、裕一郎帰ってこんのかのお…

源一郎　……

ひろし　源さん、裕一郎が何しよるか知つとる？

源一郎　は？知りやあせん。

ひろし　またまた。知つてるくせに。

源一郎　ふん。

ひろし　昔は、一緒に夏祭りではしゃいだなあ。俺も小さい時は、源さんの太鼓きいてたら、わくわくしたもんだよ。

源一郎　そうじゃろ。な、じゃったら盆踊りぐらいやろういや。のう？

ひろし　お盆なのにあんまり人帰ってこんもんなあ。

源一郎　のう？ひろし。

ひろし　もう、無理だよ。企画内容は先方が決めてるし、今更フェスに盆踊りって…

源一郎　そこをほら、こうさ。

ひろし　無理だよ。

源一郎　夏祭りには、盆踊りがいるじゃろ。

ひろし　無理なもんは、無理。

源一郎　頼むいや…：それならせめて、太鼓を叩かせてくれ頼む。

ひろし　太鼓って…、大体夏祭り、夏祭りって言ったって、自分の息子一人呼び戻せてないやないか。

源一郎　そ、そりやあ、まあ……

ひろし 郷土愛を生みたいって言うけど、裕一郎は、もう都会の人間になつたんじゃないんか？

源一郎 な…

ひろし 裕一郎こそ、ふるさとのことを忘れてしまうたんやないんか？

源一郎 うるさい！だまって聞いてりやいい気になりやがって。

遠くから声

娘の京子、孫の優がやってくる。

優 おじいちゃん。

源一郎 おお、優。よう帰ってきたのう。

京子 ちよつと優、自分の荷物ぐらい持ちなさいよ。

源一郎 長旅ご苦労さん。

京子 お父さんただいま。

ひろし 京子さん、お帰りなさい。

京子 ああ、ひろしくん。ただいま、元気にしてた？

ひろし ええ、まあはい。(優に近づき) おお、優君大きくなったなあ。

優 へへ。

ひろし 一年見ないうちにこんなに大きくなるなんて。去年の今頃は、

5センチぐらいだったのにな。

優 そんなわけないだろ。

京子 ふふふ。

ひろし おお、凄いなあ。5センチがわかるのか？

源一郎 すごいすごい。

優 わかるよ。幼稚園で習ってるんだから。センチの次は、メートル

ルって言うんだよ。

ひろし へえー物知りだなあ、優君は。

優 数だつて百まで数えられるよ。

ひろし すごいね。

源一郎 ほれじゃあ、じいちゃんの歳はわかるか？

優 わかるよ。えーと…

手招きして優を呼び寄せる源一郎。

指折り数えながら近づく優。

京子 夏祭り、中止なのね。いろいろ大変でしょう。

ひろし ああ、はい。

京子 ども、少子化や高齢化で、予算がないってことよね。

ひろし まあ、そうなんですけど…

京子 お父さんの太鼓…今年は何けないのか…寂しくなるわね

ひろし ……

京子 ねえ、代わりにロックアーティストを呼ぶんでしょ。こんな田

舎町に来る人よく見つけられたわね。

ひろし たまたま、パソコンを見て、何か代わりの催しを考えてたら、

イベント企画会社のHPを見つけて。

京子 へえー。

ひろし あとあんまり有名じゃないけど、アイドルも何組か。

京子 祭りを中止にしたのは、予算がないっていうのも原因なのに、

新しいことをやるつてのは、相当な労力がいったでしょうね。

ひろし それは、もう若い人たちを集めようという一心で。

京子 まあでも、ひろし君は昔から周りに気を遣うひとだったもんね。

周りが困ったりもめてたりしてるのを、いつもいい塩梅でまとめ

ちやうから。

ひろし そんなことないですよ。

京子 裕一郎なんか、父さん似で短気じゃない。「まあまあ」ってなだめるのは、いつもひろし君よね。

ひろし いや、そうでしたかね（照れる）

京子 だからきつと、今回の祭りのことにしても、フェスのことにしててもいろいろ気を遣って役場の人たちを段取りしたんですよ。

ひろし 京子さんだけです。そう言ってくれるのは。それなのに源さんときたら……

京子 え？

ひろし いや、こつちのことです。ところで裕一郎は、帰ってこないんですかね？今年も。

京子 連絡はあるの？

ひろし ここ最近は全然。

京子 そう……父さんに似て頑固だからね、裕一郎も。

ひろし ……

優 あ、そうだ。おじいちゃん。

源一郎 ん？

優 さつき、途中の小川に小さな魚がいたんだよ。すごい速くて、スイーって。

源一郎 ああ、ハヤか。

優 ねえねえ、捕りに行こうよ。いいでしょ。

源一郎 よし、行かか。

優 お母さんいいでしょ？

京子 いいわよ、気をつけてね。

優 はーい。行こうよ、おじいちゃん。

源一郎 よーし。じゃあ、竿と網を持ってくるから、待ちよれよ。

優 うん

源一郎 ぶるとつぴん（山口の方言）で行ってくるからの。

源一郎去る。

京子 お父さん、本気で走って転んで骨折らないでよ。さてと、ご飯の支度でもしますかね。あ、そうだ。ひろし君も夕ご飯と一緒にどう？

ひろし ええ？いいんですか？

京子 いいわよね？

優 ひろしお兄ちゃん、一緒にご飯食べよ。

ひろし じゃあ、お言葉に甘えてごちそうになります。

優 やったー！

ひろし あ、でも源さんから酔っ払って絡まれるのはちよつとなあ……

京子 大丈夫よ。今日は、私がついてるから。

ひろし どういうことですか？

京子 お酒を飲んで、酔っ払ってからむのは「私の専売特許」でね、お父さんより先に酔っ払って言いたいこと言うから、お父さんの方が酔えないってこと。

ひろし そうだったんですか？

京子 飲んで言いたいこともある。

優 飲まなきゃ言えないこともあるってね。

ひろし 優君、すごい言葉知ってるなあ。

優 へへへ。

ひろし 京子さんがねえ、なんかイメージわかないなあ。

優 （ヒソヒソと）、それが、原因で離婚したんだと思うよ。

ひろし ええ？優君、ちよつ、ちよつと。

優 お父さんも、びっくりしちゃったんじゃないかな。結婚前は、「私、お酒なんか飲めないの」って言ってたみたいだし

ひろし　そ、そうなの？。

優　それからね、お母さん酔っぱらうとね……(こによこによ)

ひろし　ええ！マ、マジ！？信じられない。

京子　ちよつと、何こそそ話してるのよ。

優　何でもないよ。

ひろし　ああ何でもないです。

京子　あやしいわね。

ひろし　ああ、えーと源さん遅いな。迎えに行ってみようか。

優　そうだね。

ひろし　じゃあ、行こうか？

優　うん。

京子　ちよつと待ちなさいよ。あ、荷物荷物。

まさる、ひろしと去ろうとするが、荷物に気づいて荷物を持つ。

ひろしも手伝う。京子一緒に去る

暗転

#お帰りなさい雁二郎

夜の祭り会場

太鼓を磨いている源一郎

小川を眺めている京子と優

のぼり旗を外しているひろし

ひろし　なんとか、明日の下見に間に合うかな。

優　おかあさん、ほら光ってるよ。

京子　あら、本当ね。ホタルかしら。ねえ、ひろし君見てよ。

ひろし　ああ、ホタルですか。

優　きれいだね。

京子　昔はずいぶんいたのよ、このあたりも。ねえ？

ひろし　はい。僕らが子ども頃はたくさんいたんですけど、乱獲やら、

何やらで、減っちゃいました。

京子　そうなのね。

ひろし　でも、町のみんなが環境保全活動をしてるおかげで少しづつ、

ホタルも見られるようにはなっただんですが、ちよつと時季外れで

すね。

京子　そう言えばそうね。

優　♪ホーホーホタル来い。あっちの水は苦いぞ。こっちの水は甘

いぞ。ホーホーホタル来い。

みんな　♪ホーホーホタル来い。

源一郎　あんなところに工場を誘致するからいや。ホタルが減っちゃまっ9

てのう。こっちの水まで苦くなりやホタルも来んわ。

ひろし　ちよつと源さん、いつまで太鼓磨いてんの？早く、下ろしとい

てよ。

源一郎　わかった、わかった。

ひろし　明日には、企画会社の人たちが来るんやけえさー。

源一郎　はいはい。

京子　ひろし君、ちよつと(ひろしを手招きする)

ひろし　？

京子　お父さんもね、寂しいのよ。だから、もうちよつとね。

ひろし　でも……

京子　お願い、ね。

ひろし　はあ……はい。

京子　ねえ、優。ホタルかどうか見に行ってみない？

優 行く行く！

京子 ひろし君もね。

ひろし あ、でも。

京子 ほらほら、いいから。お父さん、私たち、ちよつと小川までホテル見に行ってくるから。

源一郎 ああ、わかった。

京子 それとー、まだ、夜も早いから、音を出しても近所迷惑じゃないだろうなって考えて、太鼓を叩かないでね。まあ、私たちは、しばらく帰ってこないけど。じゃあ、行ってきます。

ひろし え？あ、ちよつと…

京子 いいから、いいから。

ひろし あ、ちよつと引つ張らないで下さいよ。

優 ♪ホーホーホテル来い。

ひろし、京子、優、ホテルを見に行く。太鼓のバチを見つめている

源一郎

ひろし ちよつと、京子さん。

京子 何よ。

ひろし あれじゃあ、まるで源さんに、太鼓を叩けって言っているよう

なもんじゃありませんか？

京子 だってそうなんだから。

ひろし え？

京子 聞きたいのよ、お父さんの太鼓。

ひろし あ…

京子 そういうこと。

優 ねえ、ホテル見えなくなっちゃったよ。

京子 本当ね。

ひろし やっぱり、見間違いかなあ。もうホテルの時期じゃあないからなあ…

優 おーい、ホテル。どこに行ったの？

京子 おーい。あれ、あそこ何か光ってない？

遠くから太鼓の音。

源一郎が太鼓を叩いている。

京子 ねえ、聞こえない？

ひろし もう…やっぱり

優 あっ、おじいちゃんの太鼓の音だ。

京子 やっぱり、何だか懐かしい。

優 ドンドコドン、ドンドコドン。

京子 ひろし君。

ひろし はい。

京子 どうして、お父さんが太鼓にこだわるか知ってる？

ひろし さあ、どうしてですか？

京子 小さい頃に褒められたからですって。

ひろし 誰にですか？

京子 お父さんのお父さん、つまり私にとってのおじいちゃん。おじいちゃんは戦死だったから、お父さんもかなり小さい頃のことだと思っただけね。

ひろし そうだったんですか。

京子 子どもって、そういうことずうっと覚えてるんでしょね。

優 ねえ、おじいちゃんの太鼓を聞きに行こうよ。

京子 そうね、こっそり聞きに行きましょう。

ひろし ええ？もう、行ったり来たり何なんですか…

太鼓を叩く源一郎が浮かび上がる。

鬼気迫る様子で太鼓を叩く

そこに、太鼓を聞きにひろし、京子、優が戻ってくる。

叩き終わると同時に風鈴の音。

雁二郎（裕一郎）が現れる。

優 おじいちゃん、格好いい！

京子 ちよつと腕は、落ちたかな…つてちよつと。

京子、雁二郎（裕一郎）に気づく。

京子 ねえ、ちよつとあれ。

ひろし え、まさか…

雁二郎（裕一郎）キョロキョロと落ち着かない様子。

京子 ゆ、裕一郎？

ひろし マ、マジ？

優 え、なにになに？

源一郎、やぐらから降りてきて雁二郎（裕一郎）を見つめる。

源一郎 裕一郎？

雁二郎 ？

源一郎 お、お前、どの面下げて帰って来とるんか！

京子 あ、ちよつとお父さん！落ち着いて！

ひろし 源さん！

源一郎、裕一郎と思っている雁二郎に殴りかかろうと詰め寄る。

その瞬間、雁二郎が源一郎にビンタを張る。

倒れる源一郎。

みんな え！？

源一郎 な、何すんじゃ！

雁二郎 親に向かつて、お前とは何じゃお前とは！

みんな えー…

音楽

暗転

雁二郎を囲んだ食卓。

食事をするみんな。

優はゲームをしている。

源一郎はいぶかしげに酒を飲んで

京子 不思議ね。そんなことであるのかしら。

ひろし いまいち、状況が飲み込めないんですけど…どういうこと？

京子 だからね、裕一郎の身体に、おじいちゃんの魂が乗りうつつた

みたい。裕一郎に見える雁二郎おじいちゃん。

ひろし 本当かな？信じがたいなあ。

京子 そうよね、あり得ないよね。

ひろし もしかして、裕一郎が俺たちをからかって、「どつきり大成

功！」ってなるんじゃ…

京子 そうなの？

雁二郎 どつきり？なんのことかさっぱりわからん。

ひろし あやしいなあ。

雁二郎 それより、この「けんちよう」は誰がこしらえたんか？

京子 あ、あたし。おじいちゃんには濃かったかな？

雁二郎 いや、ぶち美味いぞ。母さんの味にそっくりじゃ。

京子 母さん？ああ、おばあちゃんね。ありがとう。

雁二郎 いや、身体があるってのは実にありがたいもんじゃのう。こうして、美味しいものを食って、酒も飲めて。

ひろし あ、どうぞ。(酒を勧める)

雁二郎 お、すまんすまん。おーとつと。

京子 どうやって、裕一郎に乗りうつったの？

ひろし そうだよな。裕一郎は東京のはずだし…

雁二郎 いや、わしも不思議な感じよ。いつものようにふわふわって彷徨ってたら意識がフーって遠くなつての。

ひろし え、彷徨ってる？

雁二郎 彷徨つちよるよ。

京子 意識がもともとあるの？

雁二郎 おう、死んでものう、魂ちゆうんかの。意識はあつて、お前たちのことをなんちゆうか、遠くから眺めちよる感じよ。

京子 そうなんだ。

ひろし 見られている(キョロキョロ)

京子 それで、意識が遠くなつてどうなつたの？

雁二郎 そしたら、懐かしい太鼓の音がしての裕一郎の体に魂が乗りうつつて、気がついたら、あそこにおつたちゆうことなほいや。

京子 へえ…何んだか不思議。

ひろし 物理的問題を超越しとる…はあ？わけがわからん。

源一郎 …本当に、親父なのか？

雁二郎 じゃけえ、さつきからいいよろうが。お前の親父、雁二郎つて。疑い深いのう。

源一郎 そりゃあ、信じろつていう方が無理やろうが。

雁二郎、立ちあがつて

雁二郎 陸軍一等兵、平田雁二郎。御身は硫黄島にて玉砕し、骸となり

はてましたが、恥ずかしながら御霊のみ、孫の身体に乗りうつりしてただ今無事…いや無事ではありませんが、帰還いたしました。

京子 何だか本物っぽいね。

ひろし たしかに裕一郎には見えんような…

京子 あ、ひろし君！そこ、ゴキブリ！

ひろし え？うわー！つ、無理です。ゴキブリ！うわつ、こつち来た12

雁二郎、おもむろに素手でゴキブリをつかんで投げ捨てる

ひろし ええ！すごつ！確か、裕一郎も虫が大の苦手だったよな。

京子 うん、そうね。

ひろし じゃあ、やっぱり…

源一郎 本当に…お、お…親父？

感極まって雁二郎に抱きつく源一郎

雁二郎 おい、こらよせつて。

源一郎 親父、親父。俺嬉しいよ。

雁二郎 やめろ、気持ち悪いじゃろ。

源一郎 あ、母ちゃんにも会ったか？

雁二郎 お、おう。お盆には帰って来るって言いよったぞ。

ひろし え？それって、あの世の話し？

源一郎 そうか…よかった。

ひろし 会えちゃうんだ。

雁二郎 あっ、しかしなんじやのう。夏祭りの盆踊り中止なんじやのう。

ひろし よく知ってますね。

雁二郎 何でも知っちよるって言うたやろう。しかし、太鼓がないのは

寂しいのう？（源に問うように）

源一郎 ……まあ。

京子 それで、その乗りうつった状態はいつまで続くの？

源一郎 そうか、ずうっとってわけじゃないか。

京子 どうなの？おじいちゃん。

雁二郎 そんなこと、わしに聞かれてもわからんよ。明日かもしれないし、

明後日かもしれない。寝て起きたら魂が離れるかも。

源一郎 なるほど。

雁二郎 とにかく今はよ、この体のある状態を満喫せんと。ほれ、

酒、酒。

源一郎 そうよ、ほれ親父。

雁二郎 おお、ありがとう。ありがとう。

ひろし あっ、いけね。明日はKさんがくるんだった。書類とかいろいろ

準備しないと。すいません京子さん。ごちそうさまでした。

京子 どういたしまして。

ひろし 優君バイバイ。

優 うん、バイバイ。

ひろし 源さん、明日には太鼓片付けてくれよ。

源一郎 ああはいはい、わかったよ。

ひろし 裕一郎…じゃなかった雁さんも、魂がまだあったらまた明日。

雁二郎 おう。

ひろし それじゃあ、お邪魔しました。

ひろし 去る

京子 慌ただしいわね。

優 イベントの準備で忙しいんだろうね。

源一郎 フェスねえ…

京子 イベントが成功して、若い人がたくさん集まるといいわね。

源一郎 こんな田舎町に、人なんか集めんでもええののう。

京子 もう、お父さんもいつまでもぐずぐず言わないの。

源一郎 はいはい。

雁二郎 お、優君。何をやっとるんじや？

優 ゲーム。

雁二郎 ゲーム？

優 太鼓の達人っていうの。

雁二郎 何かわからんけど面白そうじやの。

優 やってみる？

雁二郎 おう教えてくれるか。

優 うん。いくよ（太鼓の達人の声「曲を選ぶドン」）

音楽

暗転

#祭りの前

翌朝

会場の下見に向かうKとひろし

ひろし こんな田舎町にすいませんね。

K ともでもない。のどかで良いところじゃないですか。空気もきれいだしウオツシユ！（手でWの形を作ってポーズを決める）

ひろし ウオツシユ？

K 失礼しました。僕の決めのポーズです。ウオツシユ！

ひろし はあ……すいません、そういうの疎いんで。

K ああ、良いんですよ。気にしてません。しかし、美しい景色ですね。

ひろし まあ、そんなものしか自慢できんですけれど。本当に良く来てくれました。

K ええ、お話を伺って、少しでも力になればと思いました。

ひろし あの有名な伝説のロックバンド、キックスの元ヴォーカルKさんが来てくれるなんて、きっと若い子もたくさん集まると思います。

K そうだといんですけれどね。僕も今は、ソロでやっているのです。

ひろし 大丈夫ですよ。Kさんの歌声があれば、大盛況間違いなし。

K ……ところでアイドルグループの件ですが。

ひろし いや、仕方ありませんね。こちらも格安のギャラでお願いしていますので、無理は言えません。他のイベントと重なってしまうなんて……芸能プロダクションも大変ですね。

K ええ、まあ。

ひろし でもKさんお一人でも、ソロライブっていうことで盛り上がりましょう。

K そ、そうですね。

ひろし ところで、マネージャーさんは？

K ……ああ片山も、仕事の都合で明日までには会場入りすると思

ます。

ひろし あ、そうですね……お忙しいんですね。あ、どうぞこちらです。

会場のやぐらや紅白幕を見る二人

ひろし あれ……なんだよ。片付けてって言ったのに。源さんも、太鼓出しっ放しで。

K 祭りの準備ですか？

ひろし すいません。すぐに片付けさせますんで。

K ……いいですね、風情があつて。

ひろし そうですか？今年Kさんのロックフェスなんだから、ちゃんと特設ステージを準備するつもりで指示したら、こんな感じで準備してしまつて。すいません。リハーサルまでにはきちんとして思うってます。

K いや、いいんじゃないかな。

ひろし へ？

K いいと思いますよ。祭りとロック。

ひろし 何と？

K いいじゃないですか。この雰囲気。

ひろし はい？

K だから、この夏祭りの雰囲気のまま、そこでロックを流すんですよ。

ひろし え、でもそれじゃあ……

K 新しいと思いますよ。ロックと夏祭り。

ひろし こんな感じだと、やりづらくないですか？田舎感丸出しですし。大丈夫ですよ。今からステージを組み直すより、ロックと夏祭りのフュージョンって感じが出ると思います。

ひろし フュージョン……？

K 何なら、太鼓を叩いてもらってもいいぐらいですよ。

ひろし 本当ですか？

K ええ、それにこのままなら、何かあった場合でも夏祭りは出来
そうだし。

ひろし え？何かあった場合？

K あ、いやこつちの話しです。うん、いい雰囲気だと思いますよ。

遠くから雁二郎の声

雁二郎 お、いたいた。

ひろし あれ、裕一郎？

雁二郎 雁二郎じゃ。

ひろし まだ、魂入れ替わってないんだ。

K 魂？

ひろし ああ、いえ。何ですか？今、打ち合わせ中。

雁二郎 いやね、まだ魂があるうちにお前に頼んでおこうと思って。

ひろし 何？今、忙しいんですけど。

雁二郎、Kを見て

雁二郎 あの……こちらがオスとかメスに来られる……

ひろし フェスだよフェス！

雁二郎 ああそのフェスに来られる？

ひろし 元キックスのKさん！

雁二郎 そうそれ、そのKさんにお問い合わせが。あつて。

K、雁二郎に近づいて

K あの、どちら様でしょうか？

ひろし ああ、すいません。ええとこの人は、太鼓を叩く予定の源さん
のお父さん。

K そうでしたか。はじめまして、Kです。ウオツシユ！

雁二郎、何事もなかったように

雁二郎 ちょうどよかった。Kさんにもお願いしようと思っちゃったんよ。

K 何ですか、お願いって？

雁二郎 頼む、どうか息子の源一郎に太鼓を叩かせてやってくれ。あい
つはな、小さい頃から太鼓が上手くてのう。ワシが小さい頃に褒
めたのがきっかけで、ずうつと練習しよったんよ。それで、この15
町の祭りでも太鼓を叩くようになってから、ワシもお盆にその音
を聞くのが楽しみで楽しみで……

ひろし 雁さん。

雁二郎 な、頼む。後生じゃ。いやもう死んどるけど、このとおり。な、

あんたもちよつとぐらいええじゃろ？歌と歌との間に太鼓を叩か
せてやってくれんか？

K いや、あの実は……

ひろし そのことなら、今ね、Kさんと話して太鼓とロックを合わ
せたらいいよ。

雁二郎 え？本当か？

K ええ。

ひろし だから、どういう形かわからないけどKさんがロックと太鼓を
ええと……

K フュージョン。

ひろし そう、そのフュージョンをするって言うから、源さんも太鼓をたたけそうだよ。

雁二郎 ああ、そりゃあよかった。源一郎も喜ぶぞ。

ひろし まだ、どうするか決まったわけじゃないから、あんまり喜んでも……

雁二郎 いや、ありがとう。どんな形でもええんよ。あいつが太鼓さえ叩いたら。ありがとうありがとう。

Kの手を握りながら感謝する雁二郎

K 僕も息子さんの太鼓楽しみです。

雁二郎 うん、ありがとう、ありがとう。

遠くから優の声

優 ひいじいちゃん。

源一郎と優 登場

K ひいじいちゃん？

優 もう、探したよ。

雁二郎 おお、すまんすまん。

源一郎 何しよるんか？

雁二郎 喜べ、源一郎。

源一郎 何か？

雁二郎 今のう、二人に明日のことで頼み事をな。

源一郎 何か？

雁二郎 太鼓叩けるぞ。

源一郎 え、本当か？

雁二郎 ああ今二人が約束してくれた。

源一郎 本当か？ひろし。

ひろし 約束って、ちよつと。

雁二郎 なあ、Kさん。

K あ、はい。まだ、どういう風に演出をするかまでは決めてませんが、太鼓を叩いてもらったらどうかかって。

源一郎 おお、そうかそうか。あんた、話がわかる人じゃのう。

K 日本の祭りには、太鼓が一番似合いますよ。

源一郎 そうじゃろ、ワシは最初から良いよったんよ。ほれ見てみい、ひろし。

ひろし はいはい。

雁二郎 よかったのう、源一郎。

喜んでる源一郎と優に近づくK。

K いや、でも君みたいな小さな子どもが太鼓を叩くなんて。びつくりしたよウオツシュ！

優 何言ってるの？

優 太鼓を叩くのはおじいちゃんだよ。

K へ？でもさっき、この方が息子の源一郎になって、お願いをされて……

優 だから、この人が源一郎おじいちゃん。で雁二郎ひいじいちゃんの息子。僕は孫の優。

K ひいじいちゃん！？孫？

雁二郎 どうも。

K いや、ちよつとどう見たって若いけど……？

源一郎 まあまあ、あんまり細かいことは気にするな。

K いや、でも……

優、Kに近寄って

優 ねえ、Kさん。

K うん。何かな？

優 さっきのウオツシュ？って何？

K ああ、あれはお兄さんの決めポーズだよ。

優 決めポーズ？

K ライブの時にやると盛り上がるんだよ。TVとかで見たことな

いかな？

優 見たことないな。

K そう。

優 ねえ、もう一回やってみて。

K OK！じゃあ見ててね。俺のロックでお前のハートを洗い流

せ！W u h h h h h h h h ウオツシュ！

ポーズを決めるK

優 うわー格好いい！

K だろう！

優 おじちゃん達も一緒にやろうよ。

優、源一郎、雁二郎ポーズの真似をしたり、太鼓の叩きかたを教え
てもらったりしている。

雁二郎それをほほえましく見ている。

K ……ところで、契約の話なんです。

ひろし ああ、そうでしたね。前金のお話。どうしましょうか？マネー

ジャーの片山さんが来られてからの方がいいですかね？

K あ、いや片山から事前に契約は済ますように言われていますの

で、私の方で受け取ります。

ひろし そうですか。わかりました。そういうことなら役場の方へどう

ぞ。

K はい。

ひろし あ、それとリハーサルや打ち合わせはどうしましょう。源さん

の太鼓を入れるとなると予定の変更などが生じますよね。

K いや、予定通り、明日の午前中のリハでいいでしょう。大まか

な流れは、メモしてお渡しします。

ひろし でも、源さんとの打ち合わせはしておいた方が……

K 大丈夫ですよ。太鼓の腕は確かなようですし、私もプロですか

ら。多少の演出変更には対応できます。それに今日は、少し疲れ

たので早めに休みたいんですが……。

ひろし ああ、そうですね。プロの方ですものね。いつも歌っていらつ

しゃるわけだし、それに長旅でお疲れでしょうからね。じゃあ、

行きましょう。細かいことは明日にでも。

K そうしてもらえると助かります。

ひろし それじゃあ、源さん、細かい打ち合わせは明日にでも。

源一郎 おう、わかった。

Kとひろし去る。
しばらくして京子登場

京子 あ、お父さん。

源一郎 おう、京子。

京子 ひろしくんは？

源一郎 今、役場に行くつちゆうて…

京子 ああそう…

雁二郎 聞いてくれ、源一郎が明日の祭りで太鼓を叩けるようになってのう。

優 お母さん、おじいちゃんの太鼓が聞けるね。

京子 そうなんだ、良かったわね。

優 どうしたの？嬉しくないの？

京子 ……

源一郎 どうかしたのか京子？

京子 う、うん。まあね。

雁二郎 らしくないのう。

京子 ちよつと、気になることがね。

暗転

#夜の祭り会場

源一郎と裕一郎が酒盛りをしている。

源一郎、メモを見ている。

雁二郎 何を見よるんよ。

源一郎 おお、明日の流れのメモ。さっきひろしが持ってきた。

雁二郎 ほうか。(持っているビールを飲んで) うまいのう。近頃のビールつちゆうのはこんな感じなんか。

源一郎 ああ、ビールっていうか発泡酒な。

雁二郎 まあ、何でもええけどの。見してみ。

源一郎 ほれ。(メモを渡す。)

雁二郎 (メモを見ながら。) ふーん。それにしても、ひろしの奴、はりきつとるのう。

源一郎 この町に、有名人を呼ぶっていうてのう。

雁二郎 この町にも有名人が来るんじやのう。

源一郎 あいつは、この町のために本当にようやちよるよ。今回のことも、京子も言いよつたが、ひろしやけえ実現したんやと思う。

雁二郎 そうやろうの。

源一郎 あいつは、裕一郎と違って、学校を出てからずっとこの町におるけえの。町のことはよう考えちよるよ、本当に。

雁二郎 お前もな。

源一郎 あ？

雁二郎 ずっとこの町におって、町のことを考えちよるんは、お前も同じやろ。

源一郎 そりや、早よーに戦死した親父よりは年期がはいちちよるいや。

雁二郎 こりやあ、一本とられた。ははは。

源一郎 ははは。

笑い合う二人

発泡酒を飲む雁二郎

それを見つめる源一郎

源一郎 ……なあ、本当に親父なんか？

雁二郎 何で・

源一郎 いや、こうしていると裕一郎と飲みよるみたいで……あ、ええ。

いや、悪い。何でもない。

雁二郎 変なやつやのう。まあ、無理もないか。中身は親父やけど、外見は息子やしの。

発泡酒を飲み干す源一郎

源一郎 ……裕一郎の奴。

雁二郎 ん？

源一郎 あいつ、芝居やりよるんよ。知っちよるかもしれんが。

雁二郎 ……。

源一郎 全然バツとせんよ。

雁二郎 何が？

源一郎 ワシのう、裕一郎に言ってやったんよ。成功するまで帰ってくるな。男なら堂々と胸を張って帰ってこいって……あいつ、役者の仕事……全然なんやろうな。

雁二郎 ……。

源一郎 じゃけえ、帰ってこれんのやろうな。

雁二郎 ……。

源一郎 それとも、本当に帰ってきたくないんやろうか。

雁二郎 ……そんなことがあるか。裕一郎だっけと帰ってきたいに決まっとる。

源一郎 ほうかのう。それやったら、ワシのせいなんかのう。

雁二郎 おまえ、もう酔うとるんか。

ビールを飲み干す源一郎

雁二郎 ちよつと、飲むペースが速くないか？

源一郎 ひつく。

K 登場

こそこそと逃げるように去ろうとする

雁二郎 あれ？おいちよつと源一郎、あれ（Kを指さして）

源一郎 おりよ、Kさん。

K （呼び止められて）ああ、こんばんは。

源一郎 どうしたんね。こんな夜に。ひつく

K ああ、ええとちよつと、眠れなくて……お二人は？

雁二郎 ああ、これ（ビールを掲げる）

K なるほど。

源一郎 Kさんはどうですか？

K あ……ええと……

雁二郎 ええじゃないですか、ね。

源一郎 どうぞ。

K じゃあ、少しだけ。

K、二人と一緒に発泡酒を飲む

源一郎 ようこそ、小野部町へ。（ちよつと、ろれつが回ってない）かんばしい。

雁二郎 お前、大丈夫か？Kさんもこんな田舎町でしやれた店もないけえ夜が退屈じゃろ。

K そんなことないですよ。

源一郎 おお、そうじゃ。Kさん一曲歌ってくれんかね。

K え？

雁二郎 おお、そりゃあええのう。Kさん頼むよ。

K あ、でも。

源一郎 ワシら、あんまり生でプロの人の歌とか聞いたことないんで。

雁二郎 Kさんが、どんな歌を歌うかも知らんからの。ちよつとでええ

けえ。な、頼むよ。

K …僕の歌、知らないんですか？キックスのKですよ？

雁二郎 申し訳ない。

源一郎 知らん。

雁二郎 どんな曲を歌いよるん？

K たとえば…

K スマホを取り出し、自分の曲を流す

源一郎 聞いたことないのう。

雁二郎 ああ、知らんのう。

K じゃあ、ちよつとだけ…

雁二郎 おお、よかった。

源一郎 ひっく、よつ待ってました。(拍手)

K、歌を歌う

「青空」

走るバスから手を振る僕

君をきつと迎えに来るから

誓った約束の手紙を握って
来たよ僕は君を迎えに

愛は強いものだど誰かが言ったけど
実は弱いものかもしれない
だから 僕は

遠く広がる青い空の下で

揺れる雲に

君への愛を誓うよ

I love you

拍手する源一郎と雁二郎

源一郎 おお、やっぱりプロは違うな。

雁二郎 上手いもんだなあ。

源一郎 CDとかで聞くのと雰囲気が違うのう。

雁二郎 こういう言い方は変かもしれないが、ロックちゆう感じじゃあな
いのお。

源一郎 まあ、素人にはようわからんけど。

雁二郎 いや、さすがじゃのう。

K ソロになつてからは、こういう歌も歌っているんです。

雁二郎 今の歌は、どんな気持ちで作った歌なん？

K ああ、はい。好きな人を思つて作つた歌なんですけど、昔田舎
に好きな人を残して、都会に行つて成功したら迎えに行くつて約
束した歌なんです。

源一郎 ふーん。ええ歌やのう。

K ありがとうございます。

雁二郎 それじゃあ、Kさんはもう成功したんだから、その人を迎えに行つたんか？

K あ、いやあの……あれですね。逆に成功しすぎたら迎えに行かないって言うか……

雁二郎 行つてないんか？

K あ、ええまあ。

源一郎 その人、どうなったん？

K あ、田舎で結婚して幸せにしてるみたいです。

雁二郎 現実には厳しいのう。まあ、「この世は舞台、人はみな役者」って言うし、Kさんは、Kさんのステージで、好きな人は好きな人のステージで今輝いてるんじゃないかな。

K あ、まあ……。

源一郎 「人はその時々でいろんな役を演じる」んよな……

K そ、そうですね……

雁二郎 源、お前、ようそんな洒落た台詞知つとるのう。

源一郎 シェイクスピアぐらい知つとるわ！

雁二郎 そうなんか、意外やの。

源一郎 あれやのう。ひっく。

雁二郎 ん？

源一郎 みんな、誰かに思いを届けたいって歌ったり、祈ったりするんよな。

雁二郎 どうした？

源一郎 ワシは、親父が戦死してしもうたけえ、あんまり小さい頃の親父との思い出がないけえのう、太鼓を褒められたことが本当に嬉しかった記憶しかないよ。じゃけえ毎年、夏祭りの日に、「親父にこの音が届け。帰ってこい親父の田舎はここぞ」ちゅう思いで

太鼓を叩きよるんよな。

雁二郎 そうなんか。

源一郎 Kさんは、その好きな人に「思い」を伝えようと歌うんじゃないら。

K ……。

源一郎 裕一郎は、……裕一郎は、一体どんな思いを伝えようと思つて芝居しよるんやろうか……

雁二郎 ……。

K ……あの、僕はこれで。

源一郎 ああ、そうやな。

K どうも、ごちそうさまでした。

雁二郎 ああ、明日はすまんけど頼んだよ。

源一郎 こんな田舎もんばかりの所に歌いに来てくれてありがとうな。

K い、いえそんな……。

雁二郎 ありがとう。

K 失礼します。

K、立ちあがって急いで去る。

雁二郎 あれ、Kさん！そっちは宿舎と違う方向やぞ。

源一郎 ああ本当じゃ。おい、ちよつとKさん！

雁二郎 あーあ、行つてしもうた。

源一郎 まあ、迷うたら戻つて来るやろ。

雁二郎 そうだな。

源一郎 あの人、あんまり有名人みたいな感じがせんものう。ははは。

雁二郎 なあ、さっきの裕一郎がどんな思いを伝えてるかかって話。

源一郎 ああ。

雁二郎 会つて、話して聞いてみるんが、ええんやないんか。

源一郎 何で？

雁二郎 お前も裕一郎と同じやろ。

源一郎 何が？

雁二郎 お前も若い頃、母さん一人残して東京で一旗揚げたいって言いよったやろ。母さん困つとったよ。ワシも草葉の陰から見よったけえの。

源一郎 ……。

雁二郎 そしたら、お前も仕事が上手いかなで、都落ちして帰ってき
たあや。お前は相当落ちこんどったけど、ワシは嬉しかったんよ。

これで、お前と母さんがこの田舎で過ごせるってな。母さんも心配した風だったかもしれんが、内心よろこんどったんよ。

源一郎 よう知つとるな。

雁二郎 そりゃあ、魂はこの辺浮遊しとるからなあ。

源一郎 ワシも都会で我慢が足らんかったけえの。

雁二郎 だからって、お前が出来んかったことを、裕一郎に背負わせる
ことはないんじゃないかのう。

源一郎 ……。

雁二郎 お前は、お前。裕一郎は、裕一郎いや。もう許してやれえや、
裕一郎のこともお前自身のことも。

源一郎 親父……。

雁二郎 京子にも裕一郎にもお前は、立派に愛情を注いできた。

源一郎 女房が死んで、無我夢中やったからのう。

雁二郎 ワシはお前に何もしてやれんかったけえの。

源一郎 何よ、今さら。

眠たそうな源一郎

雁二郎 じゃけどの、ワシは、お前との小さい時の思い出を今でも大切に
思うちよる。きつと裕一郎も同じよ。お前との思い出を大切に
しちよるはずいや。

源一郎 ……。

雁二郎 ……。
源一郎 そうに決まつとる。じゃけえ、もう帰ってきててもええやろう。
帰って来いって言うてやれいや。裕一郎も、帰ってきたいんと違
うか？

源一郎 ……。

眠ってしまった源一郎

雁二郎 おい、聞いとるんか？……つて寝ちよるやん。はあ……。

源一郎 ぐうぐう（寢息）

雁二郎 帰ってきたい……か。

発泡酒を飲む雁二郎

ウトウトして眠り出す源一郎

駆け込んでくる京子

京子 ちよつと、大変！大変よ！

慌てて起き上がる雁二郎と源一郎

源一郎 何？ど、どうした？

雁二郎 何事？何があった？

京子 大変なの。昼間の元キックスのKさんって人、偽物だったの。

源一郎 偽物？

雁二郎 偽物ってどういうこと？

京子 私、Kさんのことちょっとあやしいなって思っているいろいろ調べてたら……ひろし君の言うHPとか見ると何だか本物と違うような感じがしたの。そしたら、本物そっくりって言うか本物のアドレスと一字違いのHPで……本物のKって言う人は明日ドームツアーの移動日みたいで、この町に来れるはずがないみたいなの。それで、今宿舎に行ったらKさんいなくて、それで……

源一郎 それでどうした。落ち着いて話せ。

京子 どうも……この町が詐欺にあつたみたい。

雁二郎 え？

源一郎 そ、それでひろしは？

雁二郎 どうしよる？

京子 今、方々からの電話に追われてる。

たくさんの電話の音。

応対する職員の声や苦情の声がこだまする。

「町のHPに書き込みが！」

「何だって」

「申し訳ございません」

「謝って済む問題じゃないだろ」

「フェスは都合により中止となります」

「嘘つき！」

「何でだよ」

「楽しみにしてたのに」

「すいません」

「どうなってるの！」

「Kさん来ないの？」

「中止です！中止です！」

ひろしが必死に頭を下げて対応しているシルエット。

暗転

#祭りのあと

翌日

祭りの会場で落ち込んでいるみんな

優 ねえ？

京子 ……ん？

優 (ひそひそと) お祭りは中止なの？

京子 そうね……

優 Kさん、どこに行っちゃったの？ねえったら。

京子 ……。

ひろし 本当に、みなさんすいませんでした。

雁二郎 お前のせいじゃないやろ、別に。

京子 そうよ、ひろし君。

ひろし でも……

源一郎 ……ひろし。

K、登場

京子 ねえ、ちょっと。

雁二郎 あっ……

優 Kさんだ！

驚くみんな

ひろし ちょ、て、てめー

Kに詰め寄ろうとするひろし

即座に土下座するK

K 本当にすいませんでした。

ひろし 一体どうしてくれんだよ！

ひろし、Kの胸ぐらをつかみ立たせて殴ろうとする。

京子 ひろし君！ちよっと、落ち着いて！

優 ひろし兄ちゃん！

雁二郎 ひろし！

源一郎、ひろしが殴ろうとするのを止める。

源一郎 やめーや。

ひろし 離せよ源さん！

源一郎 今さら、この人を殴ったところでどうするんよ。

ひろし だって、俺この町に人集めようよと……(涙)

源一郎 この人、一人を責めたらしまいか？何かええことになるんか？

ひろし う……

K すいません、すいません。

京子 どうしてこんなことを！

K ……はじめは、冗談のつもりだったんです。ふざけて芸能ブログダクションのHPを真似て自分のブログを作ったら、たまたま

ひろしさんからのお話があつて、……ばれると思つたんです。でも何だか話がどんどん進んで後戻りできなくなつて……もしかしたら、僕なんかの歌でもいいのかなつて思つてきたんです。だますのは良くないつてわかつてるんですけど、みんな本物を知らなそうだったし。

京子 だからつて。

ひろし ふざけるなよ！

K わかつてます。悪いのは僕なんです。僕がつい……出来心で……

知らないみんなが僕の歌を聴いたらどうなるんだろうつて……もしかしたら案外うまくいくんじゃないかつて……

ひろし 偽物の歌を聴いて誰が喜ぶんだよ！

K す、すいません。

雁二郎 偽物つて……

源一郎 本物か偽物かつてゆうても、ワシらわからんけえの。ひろし、24

お前もそうやつたろ。この話を決めるときに有名人やからとか人気があるらしいからつて、そういうことだけを鵜呑みにして。都会のまねごとやなくてこの町にしか出来んことをもつと真剣に考えたら、そんなあるかどうかもわからんような企画会社の話を信じることはなかつたんやないか。

ひろし でも……

源一郎 お前も有名人が来たら、人が集まるつて安易に考えとつたやろ。

ひろし それは……

源一郎 ちゃんと、町のみんなの顔をみて田舎の人たちが、何を望んでるか考えたらこんなことはなかつたんやないか。

ひろし ……

雁二郎 言いすぎじゃないか、源一郎。ひろしだつて、この町のことを考えてないわけじゃないやろ。

京子　　そうよ、お父さん。

ひろし　いや、源さんの言う通りよ。簡単に考えとった。有名人を一人でも連れてきてイベントでもしたら、祭りが盛り上がるんじゃないかって。役場でもみんな俺のこと見なおすんじゃないかって。

雁二郎　ひろし……。

源一郎　役場の人間も同じよ。バチが当たったんよ。身の丈見失のうて。

京子　　言い過ぎよ、お父さん！

ひろし　……ほうかもしれないの。

源一郎　ところで（Kに）何で、戻ってきた。そのまま、逃げたって誰もお前さんのこと知らんのやし、わからなかったやろう。

K　……はい。ただみんなが、偽物の僕のことを本気で期待して祭りを盛り上げようとしてるし、源さんは、太鼓が叩けることを本当に嬉しそうにしてるのを見てたら、やっぱりこの人達をだますことは出来ないって。ちゃんと謝ろうって……すいませんでした。お金は返します。

ひろし　……。

源一郎　そうか。

K　　すいませんでした。

源一郎　それから、お前たちもワシに詫びんといけんのやないか？

京子　　え？

雁二郎　は？

京子　　何言ってるの、お父さん。

優　　？

源一郎　のう（雁二郎に）裕一郎？

雁二郎　お？何を言いはるん？

源一郎　わからんとも思ったか？

裕一郎　……知ってたのか？

京子　　なあんだ、やっぱりわかってたか。

源一郎　仮にも父親ぞ。息子のことぐらいわかるわ。

優　　何々？何のこと。

ひろし　え、ちよつと裕一郎って、雁二郎じいちゃんじゃないの？

源一郎　あたりまえじゃボケ！そんな都合良く、魂つちゅうもんが

裕一郎に乗りうつってたまるか。

ひろし　ええ？ええええええ！完全に騙されてた。

源一郎　お前は、騙されっぱなしやの。

裕一郎　いつから？

源一郎　最初にお前に「親父」って言ったとき。

裕一郎　何で？

源一郎　裕一郎。ワシはのう親父のことを「親父」って呼んだことないんよ。本当に小さい頃に別れたけえのう。

音楽

源一郎の回想

小さい時の源一郎を優が演じ、

雁二郎を裕一郎が演じる。

写真を撮る人のシルエット（K）

畑を耕す人のシルエット（ひろし）

朝ごはんの支度をする人のシルエット（京子）

雁二郎　おお、源どうした？

幼少の源一郎　ちやまちやま、僕ちやか段を走ってきたらこけた。

雁二郎　ああ坂段な。

幼少の源一郎　そうちやか段。

雁二郎　源は、お父様のことも「ちやま」で坂段のことも「ちやか段」

なんやのう。

幼少の源一郎 ちゃまはちゃまじゃ。

雁二郎 ははは。ほら、つばつけとけ。

幼少の源一郎 うん。

雁二郎 じゃあ、ちゃまは行くからな。

幼少の源一郎 行くってどこに。

雁二郎 お前たちを守るために行くんよ。

幼少の源一郎 守るって何から？

雁二郎 どんなものからもよ。

幼少の源一郎 いつ帰ってくる？

雁二郎 それは……

機銃掃射の爆音

爆撃機の音

倒れるシルエツトの人々

幼少の源一郎 ちゃま！ちゃまー！

雁二郎 源！

幼少の源一郎 帰ってきて！

雁二郎 源！源！

幼少の源一郎 ちゃま！ちゃま！

雁二郎 源！男やろ！泣くんじゃない！

幼少の源一郎 泣かないよ！僕泣かないよ！

雁二郎 お母さんを頼むぞ！

幼少の源一郎 ちゃま！帰ってきてよ！

雁二郎 心配するな、源！ちゃまは強いんぞ。

幼少の源一郎 ちゃま！ちゃま……

雁二郎 よおしようし、泣くな源。

幼少の源一郎 ねえ、ちゃまー！

雁二郎 おお、源……源は太鼓が上手いのう！

幼少の源一郎 うん、僕、太鼓一杯練習するよ！だから……

敬礼して消える雁二郎

幼少の源一郎（優）が「帰ってきてよ」と

台詞を言うのと同時に源一郎が台詞を言う。

源一郎 帰ってこーい！

回想終わり

源一郎 親父との思い出話はわしの大切な宝物なんよ。お前がそれを覚

えててくれたのには正直びっくりした。

裕一郎 酔うといつも話すやろ。なあ？（京子に）

京子 ええ、でもその時は「親父がととか、親父はととか」言ってた

からね。「ちゃま」とはね。

裕一郎 「ちゃま」って柄じゃなだろ。

源一郎 お前が、どういうきっかけでこんなことをしようとしたのかは

知らんけどの、お前が「ちゃま」のことを思って、「ちゃま」の言

葉で、ワシにいろいろと語ってくれたのは嬉しかった。お前がワ

シのことをあんな風に思うちよったことも嬉しかった。だから、

本当に「ちゃま」が帰ってきてくれたのかと思うたよ。ありがと

うな。けどな、お前のお前自身の言葉はな、「ちゃま」に言わせ

るんやなくて、お前の口から言うてくれよ。裕一郎。

裕一郎 親父……

京子 お父さん、裕一郎を責めないでね。私が提案したのよ。今ね、裕一郎がやっているお芝居でおじいちゃん役をやるって聞いて、だったらその練習をかねて田舎に一緒に帰ろうって。

裕一郎 姉ちゃん。

京子 お父さんも裕一郎もみんな頑固で意地っ張りなんだから。本当は、田舎に帰りたいって思ってる裕一郎の背中を押すきっかけになればと思ってるね。お父さんだって、本当は帰ってきて欲しかったんでしょ。

源一郎 ワシは…

京子 お父さんだって、自分の口で言えないでしょ。

ひろし そうよ、「帰ってきて欲しい〜」って泣きよったろ。

源一郎 嘘言うな！ワシがいつそんなことを！

京子 お父さんも自分に嘘をつかないですよ。裕一郎に帰ってきて欲しいんでしょ。そうじゃなかったら、どうしてあんなに本棚に芝居の雑誌があるの？

源一郎 そ、そんなもの知らん！

京子 嘘つき。

源一郎 ワシは、嘘はつかん。

京子 お父さん！

優 なあんだ。みんな偽物ばかりだね。

みんな？

京子 …優、何言ってるの。

優 だって、Kさんも偽物だったし。裕一郎おじいさんは、ひいおじいちゃんじゃなかったし。おじいちゃんも「本当は帰って来て欲しい」気持ちを隠してるし。みんな本物の自分じゃないじゃん。

裕一郎 優…。

源一郎 はは…本当やな。優の言うとおりの。

裕一郎 親父…いろいろごめん。連絡をずっとせんで。

源一郎 ああ。

裕一郎 ずっと、帰ってこなきゃって思ってたけど…

源一郎 なんも、ワシがあねえなことを言うたけえの。ワシこそすまん。

裕一郎 違うんよ。そういう意地みみたいなこともあるけど、ただの反発なんよ。親父みたいになりたくないって言う。

源一郎 お前は、お前じゃる。ワシとは違う。

裕一郎 あ、それ俺がおじいちゃんの台詞で言ったやつ。

源一郎 あ、本当やの。ははは。

裕一郎 親父。俺、帰ってくる前にどうしてもやりたい舞台があるんだ。

それが駄目だったら…

源一郎 好きにするがええわーや。自分の故郷に帰ってくるのに、誰の許可なんかいるわけないんやからのう。

京子 そういうこと、気兼ねせずに帰ってこれるから故郷なんだよ。

源一郎 そうじゃな。

京子 はい、じゃあ、故郷に帰ってきたら言うことがあるでしょ。

裕一郎 え？

京子 ほら、ちゃんと自分の口で言いなさいよ。

裕一郎 あ、ああ。

京子 お父さんもよ。

源一郎 おお、わかったよ。

京子 ほらほら。

裕一郎 ……：…たたいま。

源一郎 お帰り。

微笑み合う二人

笑顔のみんな。

源一郎 あとは、お前さんじゃのう。

K え？

源一郎 Kさん。お前さんは、偽物かも知れんけど、ワシらに歌ってくれた歌は本物じゃった。のう？（裕一郎に）

裕一郎 ああうん。「好きな人」への気持ちは本物やった。

源一郎 じゃけえ、あんたが考えたこれで「祭り」やろういや。

メモをKに渡す。

K、メモを受け取る。

そこにはKが書いた段取りが書いてある。

K これは…

源一郎 ひろし、お前もいつまでも落ち込んでないで、この町にしか出らんことやるぞ。

ひろし やるって、何を？

源一郎 祭りに決まっちゃろうが。

ひろし 今から？

京子 いいわね。

源一郎 当たり前やろ。町のみんなにKさんのそっくりさんが、本物の歌を聴かせるって宣伝して来い！

ひろし ええ、もう。

裕一郎 祭りか。

源一郎 ほら、早く。裕一郎も。

裕一郎 よし、行くぞ。ひろし。

ひろし あ、もうわかったよ。ちよつと待って。

走り去るひろし、裕一郎
京子役の先生、通し稽古を止める

先生 はい、OK。

きら お疲れー

みんな お疲れ様でした。

まー 思ったより、良くなかったですか？

先生 うん、まあ上手くハマったような気がするわ。

スミ 祭りとフェスカあ、いい感じですね。

ゆゆ 魂が乗り移ったっていうより現実味あるなあ。

まー みんな偽物って、何だかドキッとさせられましたね。

スミ 自分に正直であるとか、夢をあきらめないってメッセージも感

じられますし。

きら 戦争中の回想シーンをやって、やっぱりちゃんと戦争のこと理

解しないと感じたな。

ゆゆ 本当ですか？

きら 本当だよ。

スミ じゃあ、このあと勉強ですね。

きら え、ウホー（サルの鳴きまね）

ゆゆ 出た！モンキーフリーズ

先生 ふふふ

とわ 先生！これ、エンディングで本当にロックと太鼓を融合出来た

らおもしろそうですね。

先生 そうね、それもいいかもね。

ゆゆ じゃあさ、後半部分をもう少し考えませんか？

スミ だったらKさんの歌のシーンですけど…

とわ やっぱり、きらが太鼓を猛練習してさ…

きら 太鼓は頑張ってみる。

まー 先生、もう一回やりませんか？

先生 それじゃあ、休憩とつてもう一回やりましょう。

みんな はーい。

打合せしているスミときら

盆踊りをする、とわとまー

ゆゆ、雁二郎の台詞を練習する

風鈴の音。

ゆゆとなつきにスポット。

雁二郎 なつき！なつき！

なつき お、おじいちゃん？

雁二郎 ごめんな。生きて帰れんで。でもじいちゃん、お前のことは、

ちゃんとみとるけえの。ワシは死んでもうたけど、今を生きる

お前らが頑張ってくれたら、戦争で死んだ者も報われるっちゆう

もんよ。じゃけえの、自分に正直に。頑張れよ。

なつき うん、うん。

きら 先生、どうしたんですか？ぼーっとして。

なつき ああ、今ね。本当にゆゆが、おじいちゃんに見えて…

きら、へー…、あ、だったら一緒に台詞言いますか？

なつき そうね。

きら せーの…

二人 ちゃまー！お帰り！

地明かり

音楽

とわ ねえ、この台本は「創作」？「既成」？

まー それ、大した問題じゃないだろう？

スミ それより、イラスト部にもう一回お願いに行かないと。

まー そうだ、さすがに先生を舞台に上げられないでしょ。

とわ えー、先生にやってもらいましょうよ。

まー 審査対象外でもいいか？

スミ 良くないでしょ。

ゆゆ 先生、この裕一郎は先生なんですか？

先生 え？

ゆゆ 先生も夢をあきらめないでくださいよ。私は応援しています。

先生 だから、何で上から目線なのよ

みんな はははは

笑い声が稽古場に響く

音楽大きくなる

ロックと太鼓がフュージョンしてみんなが盆踊りを踊る

幕